

第3回海田東小学校校舎建替検討部会 議事要旨

日 時：令和6年7月29日（月）10：00～11：30

場 所：海田町役場4階全員協議会室

出席者：海田町教育委員会教育長，海田町教育委員会教育委員，海田東小学校区連合会長，畝自治会長，海田東小学校PTA会長，海田東小学校校長

事務局：海田町教育委員会事務局職員

議事要旨

（以下 ○：委員の発言，●：事務局の発言）

資料1 基本構想策定に係るこれまでの検討状況及び今後のスケジュールについて

- 5月28日に第2回検討部会で素案について説明して以降，6月の教育委員会会議に加えて，7月には文教福祉委員会や保護者説明会で基本構想素案について説明した。
また，6月には，新しい校舎に取り入れる機能や設備等の参考とするため，建替検討部会のメンバーで廿日市市立大野西小学校を視察した。
今後については，本日の第3回検討部会や8月下旬の総合教育会議等で基本構想最終案について説明し，最終的には9月上旬の基本構想策定を目指す。

資料2 海田東小学校校舎建替に係る整備方針（案）について

- 第2回検討部会で説明した内容と重複する点もあるが，改めて説明する。
当初は本館のみを建替対象として検討を進めてきたが，検討部会や保護者説明会での意見，保護者・教職員向けアンケート調査の結果等を踏まえ，建替対象施設や，建替えに係る業務の発注方法について，整理した。
まず，建替対象施設については，当初予定していた本館に加えて，新館・給食室を一体的に建て替えることとする。
なお，給食室については，将来的に町立中学校の給食についても集中的に調理し，提供することを見据えた規模の整備をしていく予定である。
また，児童クラブを利用する児童の安全確保・利便性向上の観点から，町民センター内にある児童クラブを建替後の校舎に移設する方向で整備を進めてまいりたい。
次に，建替えに係る業務の発注方法については，事業期間の短縮を目指して，基本計画，基本設計及び実施設計業務を一括発注することにより，各業務発注に係る期間を極力省くことで，事業期間の短縮を目指してまいりたいと考えている。
建替えのスケジュールについては，本館のみの建替えを検討していた段階から変わらず，令和11年4月からの供用開始を目指す。

資料3 海田東小学校校舎建替基本構想最終案について

- 素案本体は資料4のとおりであるが，建替えの考え方や方針といった基本構想のポイントとなる部分に絞った概要版を「資料3」のとおり作成したので，こちらにより，

最終案について説明する。

- 1ページをご覧ください。「1 海田町立学校の校舎建替の基本理念」である。こちらでは海田東小学校、海田小学校の校舎建替を進めていくにあたり、町としての基本的な考え方を根底に据えて、取り組めるよう、基本理念を整理している。

具体的には、「つくる」、「つづく」、「つながる」の3つをキーワードとして「基本理念」を整理している。

- 2ページをご覧ください。「10 学校職員、保護者等からの校舎建替に係る意見」では、基本構想策定の参考とするために、2月に実施したアンケート調査の結果や、学校関係者からのヒアリング、保護者説明会での質疑を通じていただいたご意見などをまとめている。

3ページをご覧ください。アンケート調査の結果について、説明する。アンケートの回収率は、保護者が89%、教職員が100%であり、多くの皆様にご回答いただいた。

4ページ、5ページにアンケート調査の質問項目に対する回答結果を載せている。

グラフでは、保護者、教職員が何を重視しているのかを分かりやすくお示しするため、回答者の割合をグラフにしているのでご確認ください。

- 7ページをご覧ください。「11 児童からの校舎建替に係る意見」では、3月に町長が海田東小学校を訪問し、児童代表とランチミーティングを通じて、新校舎に盛り込みたい機能や設備等について意見交換を行った際に、児童から出たアイデアなどをまとめている。例えば、「1 校舎全体」の1つ目のマルの「教室の床は、掃除しやすい仕様にするほか、各教室前に手洗い場を設置する」といった意見をはじめ、子供たちが日々の学校生活で感じたことを踏まえた意見をたくさんいただいております。こうした意見も基本構想の策定にあたり、反映させていただいている。

- 8ページをご覧ください。「12 海田東小学校校舎建替に係る整備コンセプト・整備方針」である。海田東小学校の校舎建替にあたっては、先ほどお示しした海田町立学校の校舎建替の基本理念をベースとしつつ、海田東小学校の強み・特長や、海田東地区の将来像をコンセプトに据えて、特色・魅力ある学び舎づくりを進めてまいりたいと考えている。

第2回検討部会の説明では、海田東小学校の強み・特長を、ダイナミックな教育活動・多様性と表現していたが、内容が分かりづらいというご指摘を踏まえ、それぞれ、「学校規模を生かした活力ある教育活動」、「様々な文化に自ずと触れ合える環境」という表現に修正した。

- 次に9ページをご覧ください。先ほど申し上げた修正も加えつつ、整備方針を資料のとおり改めて整理した。

具体的には、基本理念の3つのキーワード「つくる、つづく、つながる」と海田東小学校の整備コンセプトから「学校の強み・特長」である「学校規模を生かした活力ある教育活動、様々な文化に自ずと触れ合える環境、そして、海田東地区の将来像」を組み合わせ、資料のとおり、整備方針を整理した。「①活力ある教育活動と温かな

居場所が交わる学び舎づくり」、「②伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」、「③地域と共に未来を築く学び舎づくり」の3つの整備方針のもと、各方針に基づき施設整備の方向性を体系的に整理した。

- 10 ページをご覧ください。こちらが整備方針の全体像であるが、3つの整備方針の下に、あわせて9の中項目と18の小項目にまとめている。

例えば、「①活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」では、「同学年・異学年交流を促進する空間づくり」や「居心地のよい快適な空間づくり」、「②伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」では、「言語的コミュニケーションに頼らない学校施設の整備」や「伝統を継承する空間づくり」、「③地域と共に未来を築く学び舎づくり」では、「学校と地域が支え合い協働していくための空間づくり」や「災害に備えた学校施設の整備」など、整備方針の内容に沿って体系的に項目を整理している。

また、これらの項目の中で、海田東小学校の施設整備にあたって、特に注力する3つの項目を重点項目として位置付けており、これらについて次ページ以降で説明する。

- 11 ページをご覧ください。重点項目の一つ目は、整備方針①「活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」の「同学年・異学年交流を促進する空間づくり」に連なる項目「学びの中心となる学校図書館の整備」である。

こちらでは、色付きの四角枠囲みにイメージ例を記載しているが、学校図書館を学びの拠点に位置付け、全学年の児童がアクセスしやすい場所に配置し、学年を超えて、様々な児童が集い、学び合う交流の場としたり、児童クラブ利用児童が、学校図書館でも読書を楽しみ、自習することができるよう、児童クラブからアクセスしやすい場所に整備したいと考えている。

- 続いて、12 ページをご覧ください。重点項目の二つ目は、整備方針①の「居心地のよい快適な空間づくり」に連なる項目「快適で温かみのある空間の整備」である。

こちらでは、イメージ例にあるように、学校は児童にとって、学習の場であるとともに、日常的に過ごす生活の場でもあることから、安全・安心に配慮しつつ、児童がゆっくり落ち着いて過ごすことができる、快適で温かみのある居心地のよい空間を整備したいと考えている。また、児童のリフレッシュの場として、適宜休憩をとることができるスペースや、雨天時でも室内で遊びを楽しむことができるレクリエーションスペースなど、児童一人ひとりが過ごし方を選べる多様な居場所を整備したいと考えている。

- 続いて、13 ページをご覧ください。重点項目の三つ目は、整備方針②「伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」の「言語的コミュニケーションに頼らない学校施設の整備」に連なる項目「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画・サイン計画」である。イメージ例にあるように、児童だけではなく、外国人をはじめとする地域住民も含めて、利用者にとって誰もがスムーズに目的地とそこに至るまでの動線がわかるように、施設全体をデザインするとともに、校内の案内表示にはピクトグラムを取り入れるなど、誰もが直感的にわかりやすいサイン計画としたいと考えている。

- 先進地視察で図書室を見学した際、空間的というより直線的な行き来を重視してい

る印象を受けた。どちらが良いかということではないが、図書室を重点項目として挙げるからにはしっかり考えていくべき。

- 狭隘な土地の都合上、校舎の高さを上げるしかないと思うが、校舎の階数に上限はあるのか。
- 建築基準法等の一般的な規制はあるが、学校特有の上限はない。延床面積については、現状の校舎より増えると考えられるが、階数については、現時点では未定である。
- 児童数の今後の動向についてだが、人口推計の見通しが重要と考える。海田東小学校は令和7年度から令和12年度がピークで550人前後を推移する見通し。地域的に人口が増えるような雰囲気があるか。
- 若年層は多いと感じる。
- 戸数は多くなっているが空き土地は殆ど無くなった。人口推計は難しいが飽和状態だと感じる。マンションのように縦に伸びる構造の建築物が増えれば、さらに人口も増えるかもしれない。
- 公共施設ができることに付随する人口増加も考えられる。こうしたことも踏まえて、教室数を検討していくことが重要である。
- 流動的に使用できる部屋数も考える必要がある。
- 特別支援学級の数は今後も増えるのではないか。また、理科室や音楽室も2つ必要なのかなど、狭隘な敷地の中で何をどこまで求めるか考えていくことも重要である。
- 教室の配置は基本計画で練ることになる。
- 1学年に1教室程度余裕があるのが個人的には理想である。
- 基本理念はとても良いと思うので、しっかり校舎にその考えを反映していくことが重要である。
- 近年の夏は外で遊べないほど暑くなるので、屋内でのびのび過ごす上で、図書室や多目的スペースを活用することが有効と考える。
- ブックラウンジなど、一般的に分かりにくい用語には注釈を入れてはどうか。
- ご意見を踏まえ、注釈を追記する。
- 委員の皆様におかれましては、これまで3回にわたり検討部会でご意見をいただき、感謝申し上げます。皆様のおかげで、基本構想もしっかりと仕上がってきたと思う。基本構想策定後も、基本計画、基本設計、実施設計と海田東小学校の校舎建替に向けたプロセスを着実に進めていく中で、都度、委員の皆様からもご意見をいただく場を設けさせていただきたいと考えているので、今後とも、よろしくお願いしたい。